愛知東邦大学　シラバス

開講年度(Year)	2020年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	国際経営論		
担当者(Instructors)	Tran ThiTuyetNhung	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

企業経営の国際化に伴う経営課題を解決するノウハウを研究するのが国際経営論である。近年、日本では、企業の国際化の重要性がますます強調されている。本講義では、先ず、国際経営活動にはどのようなものがあるのか、国際経営の戦略とマネジメントはどのように発展してきたのかという国際経営の全体像及び基礎知識を学習する。次に、企業経営の国際的な展開における様々な問題と課題について理論を踏まえた上で、実際のグローバル企業における企業活動の国際展開を分析する。これにより、理論と実践ビジネスの両方を学ぶことができる。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	授業形態は講義であるが、積極的に発言したり意見を述べたりディスカッションに参加したりと、能動的に授業に関わることが求められる。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	オリエンテーション	国際経営、国際経営論学習の意味 講義構成、評価方法、教科書・参考書　など	□
第2回	国際経営の基礎知識	国際経営とは、CAGEフレームワーク、国際経営の戦略目標、海外進出の形態	□
第3回	多国籍企業の歴史と変化	多国籍企業とは 多国籍企業の歴史と変化（第2次世界大戦前、第2次世界大戦後（米、日本）、現代のトレンド）	□
第4回	海外進出の形態	取引（輸出、ライセンシング） 直接投資（合弁、買収、グリーンフィールド）	□
第5回	海外直接投資論 優位性の移転	海外直接投資論 優位性の移転（どんな優位性、どのように移転するか）	□
第6回	ケースに学ぶ国際経営(1) 味の素のケース	味の素のケース ケースの解説：国際経営・海外進出プロセス	□
第7回	ケースに学ぶ国際経営(2) 国際経営戦略 トヨタのケース	トヨタのケース ケースの解説：国際経営戦略	□
第8回	ケースに学ぶ国際経営(3) 国際マーケティング 資生堂のケース	資生堂のケース ケースの解説：国際マーケティング	□
第9回	ケースに学ぶ国際経営(4) 国際経営組織 アクセンチュアのケース	アクセンチュアのケース ケースの解説：国際経営組織	□
第10回	サービス産業の国際化	産業分類とサービス産業 サービス産業の海外進出の目的と経営方式	□
第11回	国際的なサプライチェーンマネジメント	サプライチェーンマネジメントの考え方 国際的な調達、国際的な製販統合	□
第12回	国際経営戦略：「標準化」と「適応化」	標準化 適応化 トランスナショナル型組織	□
第13回	国際人的資源管理	多国籍企業で働く人材 海外駐在員のマネジメント 現地従業員のマネジメント	□

第14回	国際経営のCSR	「企業の社会的責任」とCSR グローバル企業の行動基準	□
第15回	グローバル・イノベーション論 総括	国境をまたがるイノベーション グローバル・イノベーションの類型 総括	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

予習は配布資料を熟読しておくこと（２時間ほど）。復習は各自の講義ノートを整理し、疑問点をまとめ、次の講義までに質問内容をまとめておくこと（２時間ほど）。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

質問は講義中に随時受け付ける。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◆ 2019地域ビジネスDP1	②多国籍企業に関する理論を理解し、その動向への見通しを立てること。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験（in-class exam)	その他(Other)
		40%	60%	

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	毎回、授業で配布するパワーポイントをテキストとして使用する。	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	開講時に指示する。	
2		
3		
4		
5		